

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第304回 研究会

日時 平成28年9月14日(水) 午後4時 ~ 午後5時30分

場所 奈良中央信用金庫 3階 研修室

内容 会計セミナー

講師 奈良中央信用金庫

営業推進部 山田 章生

テーマ 「企業会計について」

今回は、会計セミナーとして、奈良中央信用金庫営業推進部の山田より、企業会計についてのお話をさせて頂きました。

最初に企業会計の種類として、税務会計、財務会計、管理会計についての説明をさせて頂きました。そして中小企業会計の特徴として中小企業が作成を義務付けられている決算書は税務会計による税務申告用の決算書で、外部の利害関係人への会計情報の提供を目的としたものではなく、自社や他社の決算書を見る際には留意が必要です。

次に貸借対照表の読み方について説明をさせて頂きました。貸借対照表は、企業の財政状態を明らかにするため、資金の調達源泉とその運用状況を示した一覧表です。まず勘定科目について説明をさせて頂き、そのうえで貸借対照表の代表的な分析方法として安全性分析のうち、流動比率、当座比率、固定長期適合率、自己資本比率をご紹介しました。

続いて損益計算書の読み方について説明をさせて頂きました。損益計算書は、1会計期間（事業年度）における企業の経営成績を明らかにするために作成されるものです。損益計算書の5つの利益（売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期純利益、当期純利益）と勘定科目について説明させて頂き、そのうえで損益計算書の代表的な分析方法として収益性分析のうち、売上高総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、総資本回転率をご紹介しました。

続いて資金管理の方法としてキャッシュ・フロー計算書について説明をさせて頂きました。キャッシュ・フロー計算書は「お金の流れ」を把握するための財務諸表で、「営業活動によるキャッシュ・フロー」「投資活動によるキャッシュ・フロー」「財務活動によるキャッシュ・フロー」の3つに分け、現金の調達と運用を表します。また損益計算書とキャッシュ・フロー計算書の違いについて説明させて頂き、損益計算書の上では利益が出ているにもかかわらず、入金と出金のタイミングのズレによる資金不足が発生し

ないように資金管理の大切さを説明させて頂きました。

最後に利益管理の方法として損益分岐点分析について説明をさせて頂きました。損益分岐点売上高とは「損益が0円」となる売上高、つまり赤字を出さないために確保しなければならない売上高です。そして、損益分岐点売上高に対して、実際の売上高がどの程度上回っているかを示す経営安全率と、目標利益を達成するための必要売上高の算出方法について説明させて頂きました。

今回の会計セミナーは、決算書の見方を中心にご説明させて頂きまして、財務諸表のご説明や簡易な財務分析について、お話をさせて頂きました。最後の質疑応答の時間では財務分析についてのご質問や、自社株評価についてのご質問がありました。今回のセミナーを自社の決算書を見直すきっかけとして頂けましたら幸いです。

